

専門分野

基礎看護学

授業科目	看護学概論	開講時期	単位	時間	必修	担当者	授業科目	看護における倫理と情報管理	開講時期	単位	時間	必修	担当者		
		1年次	1	30		坂本肖子			1年次	1	15		坂本肖子		
学習目標	1. 看護の目的、役割、機能を理解する 2. 看護の対象者を生活者として理解する 3. 保健・医療・福祉における看護実践の場と看護の役割を理解する 4. 看護の専門職として求められる役割と自律のありかた、責任を理解する						学習目標	1. 看護実践と倫理性について、看護の専門性と技術の観点から理解する 2. 看護の倫理原則について理解し、看護における意味を理解する 3. 看護実践における倫理的問題の特徴とアプローチ方法について理解する 4. 看護における情報の意義について理解する 5. 看護における情報倫理の必要性を理解する							
回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験
1	I. 看護とはなにか 1. 看護のイメージ 2. 看護の基本的な使命 3. 看護の定義 4. 看護の資格と責務 II. 看護の変遷と発展 1. 宗教・戦争と看護 2. 職業としての看護の歩み 3. 看護理論の発達 ・ヘンダーソン理論 ・オレムのセルフケア理論 ・ウィーデンバックの看護理論 ・ロイの適応理論 III. 看護の対象の理解 1. 統合体としての人間と環境 2. 成長発達し続ける存在としての人間 3. 人間の持つ力対処規制・コーピング 4. 生活者としての人間 IV. 看護における健康 1. 健康の定義と健康観 2. 生活と健康 3. 健康障害を抱えた人の理解 4. 病いの体験 5. 健康レベルと看護 1) 健康レベルと看護の目的/役割/機能 2) 生活と療養の場から捉える対象者と家族のニーズ 6. 保健・医療・福祉における看護実践の場と看護の役割 V. 保健医療福祉活動における看護の特徴と課題 1. 看護教育制度 2. 現代の看護に求められるもの 3. 今後の課題と展望					講義	坂本肖子 教員 実務経験:有	1	I. 看護倫理とは何か 1. 看護の倫理原則 2. 専門職の倫理 II. 看護実践における倫理的問題とそのアプローチ III. 看護における安全とは 1. 看護倫理と安全 2. 看護技術の特徴 3. 看護技術を適切に実践するための要素 IV. 看護と情報 1. 看護における情報 2. 情報社会と看護 V. 医療における情報システム 1. 地域医療福祉のネットワークと情報システム 2. ICTの活用 VI. 患者の権利と情報 VII. コンピューターリテラシー					講義	坂本肖子 教員 実務経験:有
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10								4	IV. 看護と情報 1. 看護における情報 2. 情報社会と看護					大泉みどり 看護師 帯広厚生病院 看護科長 実務経験:有	
11								5	V. 医療における情報システム 1. 地域医療福祉のネットワークと情報システム 2. ICTの活用						
12								6	VI. 患者の権利と情報						
13								7	VII. コンピューターリテラシー						
14								8	試験						
15								試験							
テキスト	看護学概論/医学書院 [副読本] 看護覚え書/現代社 臨床看護の本質/現代社 看護の基本となるもの/日本看護協会出版会						テキスト	看護倫理/医学書院 看護情報学/医学書院 基礎看護学技術 I /医学書院							
評価方法	筆記試験						評価方法	筆記試験							
先修条件	なし						先修条件	なし							

専門分野

基礎看護学

授業科目	看護におけるコミュニケーション	開講時期	単位	時間	必修	担当者	授業科目	フィジカルアセスメント	開講時期	単位	時間	必修	担当者									
		1年次	1	30		高氏美奈子			1年次	1	30		高氏美奈子									
学習目標	1. コミュニケーションの特徴と看護活動におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーション手段について理解する。 3. コミュニケーションに影響する要因について理解する。 4. 看護場面の再構成の目的と方法を理解する。 5. 健康状態の変化に伴う学習支援の特徴について理解する。						学習目標	1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの意義や重要性について理解する。 2. フィジカルイグザミネーションの基本技術を習得できる。 3. バイタルサイン測定の目的と方法を理解し、正確に測定でき、記録できる。 4. 呼吸・循環系のフィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、フィジカルイグザミネーションが実施できる。 5. 患者の訴えから患者に起こっていることについてアセスメントができ、その対応方法について考えられる。														
回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験							
1	I. 看護におけるコミュニケーション 1. コミュニケーションとは 1) コミュニケーションとは 2) 人間のコミュニケーションの特徴 3) 看護・医療におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの本質 コミュニケーションの構成要素 3. 関係構築におけるコミュニケーションの基本 4. 看護におけるコミュニケーション手段 1) 本来的手段としてのコミュニケーション技法 2) 関係構築のためのコミュニケーション技法 5. コミュニケーションに影響する要因 1) 環境要因 2) 人的要因 3) 機能障害 4) 位置と距離：対人距離 6. 対人関係の成立に不可欠な要件 1) 自分を理解する：ジョハリの窓 2) 他者を理解する：相手の立場に立つ・相手に関心を持つ II. 看護場面の再構成 1. 看護過程の三要素と再構成 2. 看護場面の再構成演習 III. 看護における学習支援 1. 看護における学習支援 2. 健康状態の変化に伴う学習支援 3. 学習支援の実際 4. 集団を対象とした学習支援					講義	高氏美奈子 教員 実務経験：有	1	I. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは 1. ヘルスアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントとは ・フィジカルイグザミネーション ・フィジカルアセスメント 3. ヘルスアセスメントの技術 1) 問診、健康歴の聴取 2) セルフケア能力のアセスメント 4. フィジカルアセスメントの技術 ・視診 ・触診 ・聴診 ・打診 など 5. 全身状態の把握 ・意識レベル ・栄養状態 ・姿勢 ・歩行 ・表情 ・活気 ・におい ・服装 など					講義	河瀬こずえ 教員 実務経験：有 【試験配点】 70点							
2								3	4	5	6	7	8			9	10	11	12	13	14	
3								4	5	6	7	8	9			10	11	12	13	14	15	
1								II. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸とは 呼吸器系のアセスメントの実際 2) 循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系の基礎知識 血圧・脈拍 3) 腹部のフィジカルアセスメント					3			4	5	6	7	8	9	10
1								III. バイタルサインの観察とアセスメント 1. バイタルサイン測定の意義 2. 変動因子 3. 測定方法					7			8	9	10	11	12	13	14
1								IV. バイタルサインの測定					8			9	10	11	12	13	14	15
1								V. 臨床推論演習 1. オリエンテーション、事例紹介 2. 計画立案					9			10	11	12	13	14	15	
1								3. シミュレーション演習 ・ブリーフィング ・フィジカルアセスメントの実施 ・デブリーフィング 4. まとめ					11			12	13	14	15			
1								バイタルサイン測定実技試験 1H 筆記試験 1H					15									
テキスト								基礎看護技術 I / 医学書院								テキスト	基礎看護技術 I / 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック / 医学書院					
評価方法								筆記試験：7割 授業内演習の参加度・取り組み：3割								評価方法	筆記試験：7割 実技試験（バイタルサイン測定）：3割					
先修条件								なし								先修条件	なし					

専門分野

基礎看護学

授業科目	看護実践の方法	開講時期	単位	時間	必修	担当者	授業科目	看護実践演習	開講時期	単位	時間	必修	担当者		
		1年次	1	30		花本富貴子			1年次	1	30		花本富貴子		
学習目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義を理解する。 2. アセスメント、看護診断、計画立案、実施・報告、評価といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方や実際を理解する。 3. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解する 4. 事例患者について看護過程を展開する。						学習目標	1. 入院目的や入院に至る経過から看護方針を理解する。 2. 患者の反応から、基本的ニーズの充足状況について考えることができる。 3. 患者の苦痛やニーズの充足状況を理解するための観察、コミュニケーションが行える。 4. 患者の苦痛の訴えに立ち止まり、どうすることが患者にとって善いのか考えることができる。 5. 患者にとって必要な看護を考えることができる。							
回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験
1	1. 看護活動と看護過程					講義	花本富貴子 教員 実務経験:有		◎誤嚥性肺炎事例患者について、ニーズの充足状況を判断し、必要な援助を考え実施する。					演習	花本富貴子 教員 実務経験:有
2	2. 看護過程の基盤							1	1. 患者目標・看護方針を理解するために、患者の置かれてる状況を整理する。 1) 入院目的/治療方針 2) 入院に至る経過 3) 受け持つまでの経過と現在の状態 4) 患者の受け止め 5) 患者の思いや苦痛						
3	3. 看護過程の構成要素 1) アセスメント							2	2. 基本的ニーズの充足状況を把握する 1) 事例患者のニーズの充足状況 ①酸素化 ②栄養 ③排泄 ④活動と休息 ⑤防御 など						
4	2) 看護診断							3	2) 病気や治療がニーズの充足状況にどう影響を与えているか考える。						
5	3) 計画							4	3. 事例患者の生活をどのように整えていったら良いか考え、行動計画を立案する						
6	4) 実施と報告							5	4. 必要な情報収集を行い、援助を実施する 1) 患者の全身状態の観察と状態に合わせた援助方法の決定 2) 患者の反応から必要な援助を考える						
7	5) 評価							6	5. 計画した援助の実施・評価を行う						
8	4. 看護記録とは							7	6. まとめ						
9	5. 看護過程における記録 POS							8							
10	6. 事例による看護過程の展開							9							
11								10							
12								11							
13								12							
14								13							
15	試験							14							
15						15									
テキスト	基礎看護技術 I / 医学書院 看護診断ハンドブック第11版 / 医学書院						テキスト								
評価方法	筆記試験						評価方法	学習内容 (個人学習ノート, グループ作成資料, 個人レポート) : 5割 学習態度 (グループワーク・発表会の参加状況) : 5割							
先修条件	なし						先修条件	なし							

専門分野

基礎看護学

授業科目	日常生活 援助技術Ⅰ	開講時期	単位	時間	必修	担当者	授業科目	日常生活 援助技術Ⅱ	開講時期	単位	時間	必修	担当者
		1年次	1	30		高氏美奈子			1年次	1	30		高氏美奈子
学習目標	1. 人間にとっての環境の意味を理解して、健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。 2. ベッドメイキング、リネン交換の実際を学び、病床における環境調整の方法を学ぶ。 3. 感染と感染予防の概要を学び、感染予防における看護師の責務と役割を理解する。 4. スタンダードプリコーション、感染経路別予防策を学ぶ。 5. 滅菌物の取り扱い・感染廃棄物の取り扱いの方法と留意点を学ぶ。 6. 酸素療法、排痰ケアの目的と方法を理解する。						1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解する。 2. 様々な体位とその目的を理解し、体位変換/移乗移送の援助を学ぶ。 3. 睡眠と睡眠障害について理解し、活動と休息のバランスを整えるための援助を学ぶ。 4. 清潔の意義とその援助の目的を理解できる。 5. 皮膚・粘膜のしくみと清潔のアセスメントのポイントを理解する。 6. 清潔保持するための様々な援助方法を学ぶ。						
回数	授業計画・授業内容				授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容				授業方法	講師/実務経験
1	I. 生活環境を整える 1. 環境とは 2. 生活環境の意義 3. 病人にとっての生活環境の調整 4. 病床環境の整備 5. ベッドメイキングの実際 6. リネン交換の実際 7. 環境の危険予知訓練と生活環境調整技術				講義	佐藤舞菜見 教員 実務経験:有 【試験配点】 50点	1	I. 姿勢を保つ・活動を整える 1. 基本的活動の援助 2) 1) 姿勢と体位 (安楽な体位含む) 2) ボディメカニクス 3) 体位変換・保持 4) 移乗・移送の介助 (車椅子・ストレッチャー) II. 睡眠・覚醒の援助 1. 睡眠・覚醒の援助 2. 睡眠障害のアセスメント 3. 睡眠・休息の援助				講義	鳥羽あゆみ 教員 実務経験:有 【試験配点】 30点
2													
3													
4													
5							演習						
6							演習						
7							講義						
8	II. 感染防止の技術 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策 3. 感染経路別予防策 4. 感染性廃棄物の取り扱い 5. 針刺し事故防止策 6. 洗浄・消毒・滅菌 スタンダードプリコーション演習 手洗い、防護用具の着脱 無菌操作の実際				講義	原 理加 帯広厚生病院 感染症看護 専門看護師 感染管理認定 看護師 実務経験:有 【試験配点】 40点	8	III. 身体の清潔を保つ 1. 清潔援助の目的および方法の選択 2. 清潔援助による身体への影響 3. 清潔の援助 1) 入浴・シャワー浴の援助 2) 部分浴・末梢循環障害とそのケア 3) 全身清拭 4) 洗髪、整容 4. 病床での衣生活の援助 1) 病衣・寝衣の選択 2) 病衣・寝衣交換 【学内演習】足浴・手浴 シャワー浴介助 【学内演習】全身清拭、寝衣交換 【学内演習】洗髪				講義	高氏美奈子 教員 実務経験:有 【試験配点】 30点
9													
10													
11							演習						
12							演習						
13	III. 呼吸を整える技術 1. 酸素吸入療法 2. 排痰ケア (体位ドレナージ、吸引) 酸素吸入療法、吸引				講義	岩脇孝導 教員 実務経験:有 【試験配点】 10点	13	3. 清潔の援助 5) 陰部のスキンケアと陰部洗浄・オムツ交換、褥瘡予防ケア 【学内演習】陰部の保清・オムツ交換				講義	大椋友美 帯広厚生病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 【試験配点】 10点
14							演習						
15	試験						15	清拭実技試験 1H 筆記試験 1H					
テキスト	基礎看護技術Ⅰ／医学書院 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 ビジュアル臨床看護技術ガイド／照林社						テキスト	基礎看護技術Ⅰ／医学書院 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 ビジュアル臨床看護技術ガイド／照林社					
評価方法	筆記試験						評価方法	筆記試験：7割 実技試験（清拭）：3割					
先修条件	なし						先修条件	なし					

専門分野

基礎看護学

授業科目	日常生活 援助技術Ⅲ	開講時期	単位	時間	必修	担当者	授業科目	診療に伴う 技術	開講時期	単位	時間	必修	担当者
		1年次	1	30		高氏美奈子			2年次	1	30		鳥羽あゆみ
学習目標	1. 人間にとっての食事、栄養摂取の意義とそのしくみについて理解する。 2. 食事、栄養摂取のアセスメントを行うための基本的事項を理解する。 3. 食事介助、嚥下訓練、口腔ケアの目的、方法、留意点を学ぶ。 4. 排泄のメカニズムを理解する。 5. 排泄の意義および患者の尊厳をふまえた援助の基本を理解する。 6. 患者の病態およびADLに応じた排泄援助の実際を学ぶ。						学習目標	1. 検査における看護師の役割を理解する 2. 検体検査の目的および種類と方法、留意点を理解する 3. 生体検査の目的および種類と方法、留意点を理解する 4. 静脈血採血の方法、留意点を理解する 5. 与薬における看護師の役割を理解する 6. 安全で適切な与薬を行うための方法、留意点を理解する 7. 注射に関する基本的事項と、各種注射法とその留意点を学ぶ					
回数	授業計画・授業内容				授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容				授業方法	講師/実務経験
1	I. 食べる 1. 食事援助の基礎知識 1) 食べるとは 2) 栄養/代謝のメカニズム 3) 栄養状態のアセスメント				講義	河瀬こずえ 教員 実務経験:有	1	I. 検査 1. 検査の介助に関する基礎知識 2. 検査に関わる看護師の役割				講義	鳥羽あゆみ 教員 実務経験:有 【試験配点】 30点
2	4) 栄養・代謝障害 5) 食欲・摂食行動のアセスメント						2	3. 検体の採取とその取り扱い 4. 検査の介助 1) 生体モニタリング検査 2) 画像検査 3) 穿刺 4) 検体検査と検体の取扱い					
3	2. 食事摂取の介助 食事環境の調整/食事摂取の介助				講義 演習	河本友香 帯広厚生病院 摂食・嚥下障 害看護認定看 護師 実務経験:有 【試験配点】 20点	3	5. 静脈内採血の実際				演習	
4	3. 摂食・嚥下能力のアセスメント 摂食・嚥下訓練/口腔ケア						4	II. 与薬 1. 与薬の基礎知識 2. 与薬における看護師の役割・機能 3. 与薬の方法 I 1) 経口薬の投与 2) 非経口与薬: 口腔内与薬、直腸内 与薬、経皮・外用薬 3) 事例患者に合わせた与薬の実際					
5	4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法				講義	河瀬こずえ 教員 実務経験:有 【試験配点】 30点	5	4. 与薬の方法 II 1) 注射法とは 2) 注射法における看護師の役割 3) 注射に伴う危険・合併症 (針刺し事故の防止・事故後の対応) 5. 注射の援助の実際 ・皮下注射 ・筋肉注射 ・静脈内注射・輸液療法				講義	鳥羽あゆみ 教員 実務経験:有 【試験配点】 70点
6	【学内演習】経管栄養法 経鼻胃チューブの挿入・管理、流動食の注入						6	6. 輸血管理 1) 皮下注射 2) 筋肉注射					
7	II. 排泄する 1. 排泄援助の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3) 排泄のアセスメント				講義	内海綾音 教員 実務経験:有 【試験配点】 50点	7	3) 事例患者に合わせた与薬の実際				シミュ レー ション	
8	2. 自然排尿及び自然排便の介助 トイレ・ポータブルトイレ・床上 排泄・オムツ						8	5. 注射の援助の実際 ・皮下注射 ・筋肉注射 ・静脈内注射・輸液療法					
9	【学内演習】自然排尿・排便の介助 床上(尿便器・オムツ)、ポータブルトイレ				演習		9	6. 輸血管理 1) 皮下注射 2) 筋肉注射				演習	
10	3. 排泄機能障害 1) 排尿障害/排便障害 2) 排泄障害に関連するニーズ 3) ニーズ判断のためのアセスメント 4) ニーズ充足に向けての看護						10	3) 輸液療法/輸血管理 事例患者に合わせた輸血管理の実際					
11	【学内演習】浣腸/排便				演習		11					シミュ レー ション	
12	【学内演習】一時的導尿/持続的導尿 膀胱留置カテーテルの挿入・管理						12						
13					演習		13						
14							14						
15	試験						15	試験					
テキスト	基礎看護技術Ⅱ/医学書院 臨床看護総論/医学書院 ビジュアル臨床看護技術ガイド/照林社						テキスト	基礎看護技術Ⅱ/医学書院 臨床看護総論/医学書院 ビジュアル臨床看護技術ガイド/照林社 今日の治療薬/南江堂					
評価方法	筆記試験						評価方法	筆記試験					
先修条件	なし						先修条件	なし					

専門分野

基礎看護学

授業科目	経過・治療別看護		開講年次	単位	時間	必修	担当者
			1年次	1	30		高氏 美奈子
学習目標	1. 急性期・慢性期・リハビリテーション期・終末期にある患者の治療の特徴と、ニーズ、患者・家族への援助について学ぶ 2. がん患者の看護について学ぶ 3. 手術療法の特徴と、それを受ける患者の看護について学ぶ 4. 化学療法、放射線療法の特徴と、それを受ける患者の看護について学ぶ						
回数	授業計画・授業内容	授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容	授業方法	講師/実務経験
1	I. 経過に基づく看護 1. 急性期における看護 1) 急性期とは 2) 急性期治療の特徴 3) 急性期患者のニーズ 4) 急性期にある患者への援助 5) 家族への援助 2. 慢性期における看護 1) 慢性期とは 2) 慢性期治療の特徴 3) 慢性の経過をたどる患者のニーズ 4) 慢性期にある患者への援助 5) 慢性病との共存を支える看護の 実践 ①エンパワメント ②セルフケアとセルフマネジメント ③セルフマネジメント支援の 構成要素 6) 家族への援助 3. リハビリテーション期における看護 1) リハビリテーション期の特徴 2) リハビリテーション期の患者の ニーズ 3) 障害受容過程と看護 4) リハビリテーション期にある患者 への援助 5) 急性期・回復期・維持期の リハビリテーションと看護 6) 日常生活再構築のための看護技術 7) ボディイメージの変化に対する 看護技術 4. 終末期にある患者の看護 1) 終末期の特徴 2) 終末期の患者のニーズ 3) 終末期にある患者への看護援助 ①援助の基本 ②苦痛への援助 ③状態に応じた日常生活の援助 ④心理的安寧への援助 ⑤家族への援助 4) 死後のケア	講義	岩脇孝導 教員 実務経験:有 【試験配点】 50点	9	II. 治療に応じた看護 1. 手術療法 1) 手術療法と集学的治療 2) 手術の種類 3) 手術前後に行われる診療 4) 周手術期における看護師の役割 5) 周手術期の看護 ①術前の看護 ②術当日の看護/手術室における看護 ③術後の看護 6) 無菌操作学内演習 手洗い/ガウンテクニック 2. 化学療法 1) 化学療法の流れ 2) 抗悪性腫瘍薬の種類と特徴 3) 化学療法の治療計画 4) 化学療法の目的 5) 化学療法を受ける患者・家族の 看護 ①化学療法に対する準備教育 ②副作用と合併症 ③曝露予防策の実施 ④治療継続と生活調整に向けた セルフケア ⑤治療の移行・終了に対するケア 3. 放射線療法 1) 放射線療法の特徴 2) 放射線療法の治療計画 3) 放射線療法の目的 4) 放射線療法を受ける患者・家族の 看護 ①放射線療法に対する準備教育 ②効果的な治療を行うためのケア ③治療継続と生活調整に向けたケア ④放射線の被爆防止の実施	講義	五十川千恵美 看護師 帯広厚生病院 看護係長 実務経験:有 【試験配点】 20点
10							
11							
12							
13							
14							
15							
15							
8	5. がん患者の看護 1) がん患者の苦痛に対する マネジメント 2) がん患者の心理的サポート 3) がんの予防と早期発見 4) がん治療における看護の重要性	講義	黒川文吾 帯広厚生病院 がん性疼痛看 護認定看護師 実務経験:有 【試験配点】 10点	14	III. 救急法を必要とする患者の看護 1. 救急法とは 2. 救急状況にある患者の特徴 3. 救急状況にある患者・家族への 援助 (BLS、止血法、包帯法)	演習	武田絵梨香 看護師 帯広厚生病院 【試験配点】 10点
15				試験			
テキスト	臨床看護総論/医学書院 成人看護学総論/医学書院 基礎看護技術Ⅱ/医学書院 別巻 がん看護学/医学書院 ビジュアル臨床看護技術ガイド/照林社 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント/学研						
評価方法	筆記試験						
先修条件	なし						